

5 道徳

(1) 小学校

ア 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標(道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者ともによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。)に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てる。

イ 教科の特徴

道徳科の授業では、[節度、節制][感謝][生命の尊さ]などの道徳的価値を含む内容についての指導が行われます。基本的な生活習慣に関する内容には規則正しい食習慣が関わっており、同様に感謝や生命尊重には食への感謝、郷土には地域の食文化に関わるなど、それぞれ食に関する指導と深く関わっています。

したがって、食に関する指導に当たっては、「食に関する指導の目標」や六つの視点と関連する道徳の内容を十分理解した上で、道徳科の特質を生かして多様な学習を展開していくことが大切になります。

ウ 教科の内容

(ア)食に関連する内容

[第1学年及び第2学年]

A 主として自分自身に関すること

[節度、節制]

健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。

B 主として人との関わりに関する事

[感謝]

家族など日頃世話になっている人々に感謝する事。

C 主として集団や社会との関わりに関する事

[伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度]

我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつ事。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

[生命の尊さ]

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

〔第3学年及び第4学年〕

A 主として自分自身に関すること

〔節度、節制〕

自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする事。

B 主として人との関わりに関する事

〔感謝〕

家族など生活を支えてくれている人々や現在の生活を築いてくれた高齢者に、尊敬と感謝の気持ちをもって接する事。

C 主として集団や社会との関わりに関する事

〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつ事。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

〔生命の尊さ〕

生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。

〔第5学年及び第6学年〕

B 主として人との関わりに関する事

〔感謝〕

日々の生活が家族や過去からの多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応える事。

C 主として集団や社会との関わりに関する事

〔伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度〕

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ事。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事

〔生命の尊さ〕

生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。

道徳科の基本的な学習指導過程は、一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定することが行われています。それぞれの段階には、次のような役割があります。

【導入】主題に対する児童の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図ります。

【展開】ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童一人一人が道徳的価値の理解を基に自己を見つめます。

【終末】ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぎます。

(イ) 題材

【第1学年及び第2学年】

題材名	食育に関する内容
あかるいあいさつ	あいさつやマナーを題材とする中で、食事の際のあいさつや作法を取り上げることが考えられる。「いただきます」「ごちそうさま」の意味について 考える動機づけをする。
いきているって	あたりまえのこと「食べること」が生きているからできることだと気づき、食べることが幸せだという気持ちを育てる。
ありがとうがいっぱい	児童の日常（給食）などを支えてくれる人に対しての感情を見つめる。
きゅうしょくとうばん	給食当番活動を通して、みんなのために自分の仕事をしようとすることの良さや、うまくできない難しさを確認する。
これならできる	給食当番活動を生かし、家族における食生活において家族のために自分ができることをしようとすることの良さや、うまくできない難しさを確認する。
おせちのひみつ	おせち料理をとおして、日本の食文化に興味をもたせる。給食の献立にいれたり、給食だより等で家庭へも伝える。
日本のお米、せかいのお米	給食でどんな米料理を食べたことがあるか考えるとともに、米を通して、世界にいろいろな米料理があることを知る。

【第3学年及び第4学年】

題材名	食育に関する内容
生きている仲間	人間も環境との関わりなしには生きられない存在であり、食生活を支えている動植物の生命を取り上げ、生活科や理科で育てた気持ちを思い出し、食べ物を大切にしようとすることの良さや、うまくできない難しさを確認する。
マサラップ	給食の「世界の料理」を思い出し、他国の食文化への関心を高め、考える動機付けを図る。

【第5学年及び第6学年】

題材名	食育に関する内容
おおきに ありがとう	大切にしたい日本の伝統や食文化を考える。
小さな国際親善大使	給食の「世界の料理」を思い出し、他国や日本の食文化に対する気持ちを確認する。
命の旅	動植物の生命をいただいて食生活があることから、食べ物を大切にしようとすることの良さや、うまくできない難しさを確認する。

(ウ) 学習段階における食に関する指導の例**【導入の段階】**

- 起床や就寝時刻、食事を含めた生活のリズムについて1週間調査を行い、規則正しい生活をしているかどうかを自己評価させて、問題意識をもたせます。
(A 節度、節制)
- 郷土の農産物と食物との関係を分かりやすく示したカルタを用いて郷土への関心を高めさせ、展開の段階へとつなぎます。
(C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
- 人間が誕生してから、母乳、離乳食、一般食に移行していく過程など、食べ物が生命の維持に深く関係していることを表すパネルを活用して、食生活や自他の生命の尊さについて関心をもたせます。(D 生命の尊さ)

【展開の段階】

- 規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっているも、心の弱さ

から不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。(A 節度、節制)

- 我が国や郷土の産業、特に農産物を受け継ぎ、発展させてきた人々の思いや努力について考えさせます。(C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
- 動植物の生命を含め、全ての生命はかけがえのないものであることを理解させるとともに、その生命をいただくことで生かされていることに気付かせ、生命のつながりを多面的・多角的に考えさせます。(D 生命の尊重)

【終末の段階】

- 食事と睡眠をしっかりと、生活に一定のリズムを与えることが、健康で明るく、快適な毎日を送ることができるようになることに気付かせ、実践しようとする意識を高めます。(A 節度、節制)
- 教材の内容から郷土へと視点を移し、郷土の産業や農産物に触れ、親しみながら、大切にしていこうとする意欲を高めます。
(C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度)
- 人間が生きていく上で食べるということの大切さに改めて気付かせ、食生活は生命のつながりによって成り立っていることを実感させ、生命を尊重する心情や態度を育てます。
(D 生命の尊さ)

エ 他教科等との関連

生活科における「わくわくどきどきしょうがっこう」において、児童は、学校にはたくさんの教室や施設があることや、自分たちの学校生活を支えるために、いろいろな人が関わっていることに気付きます。また、給食室を訪問し、栄養教諭、給食調理員にインタビューをしたり、調理器具を見せてもらったりするなど、自分たちの学校をより関心をもって調べ、発表することを通して、児童のできることに、生活科における学習との関連を図ると効果的です。

オ 栄養教諭の関わり方

【導入の段階】

主題や教材に対する児童の興味・関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図るため、例えば、給食に関する写真や実物、統計資料、掲示資料など、栄養教諭のもつ情報を生かして、これから話し合おうとする内容について、興味や関心を高め、問題意識をもつことができるように関わります。特に、児童にとってアンケートを活用したり、視覚に訴える写真などを生か

して提示したりすると、児童の話合いへの動機付けをより強く図ることができます。また、学習課題を設定することもあります。

なお、多くの資料を用いず、厳選した資料で心を動かすように関わり、短い時間で進めます。

【展開の段階】

ねらいを達成する、また、読み物教材や映像教材、語り聞かせによる教材などを通して話し合い、児童一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめるため、道徳科の授業の教材作成時、食や食育に関する情報などを作成者（担任教諭など）に情報提供したり、内容などのアドバイスをしたりします。栄養教諭自身はその専門性を生かして教材を作成したり、担任教諭と協力して作ったりすることも考えられます。

また、課題について児童が追究する段階では、児童の主体的な思考を促し、適切な問い返しや話題の拡張で課題を追究できるようにします。

グループ活動では、栄養教諭は、専門性を生かして、グループ活動を行っている児童の話合いに助言したり、質問に答えたりすることで、担任教諭と協力しながら、話合いが円滑に行われるようにし、児童の学習を支援します。

【終末の段階】

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、今後の発展につなぐため、食事に関する話や、心に響く写真や映像を見せるなど印象付けを図ったりして、児童の心に強く残るまとめとなるように工夫することが大切です。

また、ねらいとする道徳的価値に対する児童一人一人の思いや考えを大切にしながらも、栄養教諭からの願いを伝えたり、食事や食生活の意味を端的に伝えたりして、食事の在り方や食生活について、よりよい習慣を身に付けていこうとする意欲などを高めることができますようにします。

第2学年 道徳指導案（例）

1 題材名 「おせちのひみつ」～（C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）

2 主題のねらい

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送るうえで心のよりどころとなるなど、生き方において大きな役割を果たすものである。自分が生まれ育った国や郷土の伝統や文化に積極的に関わり、理解を深めるようにしたい。さまざまな体験を通して国や郷土の伝統や文化に十分な愛着を感じられるようにする。

そのためにまずは、身近な伝統や文化に対して、興味を抱けるようにしたい。伝統や文化に対して愛着をもち、大切にしている心は、それらと自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。

日本で長い歴史を通じて受け継がれてきたおせち料理について知ることを通して、日本の伝統や文化に親しもうとする心情を育みたい。

3 学びの姿

- ・ 季節の行事などを通して、国や郷土の文化と生活に親しみをもつことについて考える。
(道徳的価値の理解を基に)
- ・ 昔から日本に伝わるものについて、自分はどんなことを知っているかを振り返っている。
(自己を見つめる)
- ・ 昔から日本に伝わるものには、さまざまな願いが込められていることに気付いている。
(多面的・多角的に考える)
- ・ 日本の伝統的な文化や生活のよさを感じ、もっと知りたい関わりたいと考えている。
(自己の生き方についての考えを深める)

4 食育の視点

- ・ 日本の伝統ある優れた食文化を知り、尊重しようとする態度を養う。【食文化】

5 本時の目標

おせち料理の名前とそれに込められた意味や、日本で昔から受け継がれている行事や料理を知ることを通し、日本の伝統や文化に親しもうとする心情を育てる。

6 展開 T1 学級担任 T2 栄養教諭

過程	学習活動	教師の関わり				
導入	おせち料理について知っていることや使われている食材について振り返る。	(T1)給食メニュー「紅白なます」からお正月やおせち料理を思い出させる。				
展開	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">お正月に 食べるよ</td> <td style="padding: 5px;">甘い物が 多いよ</td> <td style="padding: 5px;">豆やエビが 入ってたよ</td> <td style="padding: 5px;">家で食べたこ とがないな</td> </tr> </table>	お正月に 食べるよ	甘い物が 多いよ	豆やエビが 入ってたよ	家で食べたこ とがないな	(T2) (おせち料理のレプリカや写真を提示しながら) 行事食(教科書 P138)の絵や説明でおせち料理の意味を知らせる。
	お正月に 食べるよ	甘い物が 多いよ	豆やエビが 入ってたよ	家で食べたこ とがないな		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> むかしから つたわるものやりようには どんなねがいがこめられているかな。 </div>						
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="padding: 5px;">紅白 おめでたい 色なんだね</td> <td style="padding: 5px;">れんこん 先の方が見えるとい う意味があるんだね</td> <td style="padding: 5px;">黒豆 「まめに働けるよう に」食べるんだね</td> </tr> </table>	紅白 おめでたい 色なんだね	れんこん 先の方が見えるとい う意味があるんだね	黒豆 「まめに働けるよう に」食べるんだね		
紅白 おめでたい 色なんだね	れんこん 先の方が見えるとい う意味があるんだね	黒豆 「まめに働けるよう に」食べるんだね				

まとめ	給食に出ている行事食について知る。	(T2) 給食の行事食を紹介し、その料理のもつ意味を知らせる。(例 赤飯の赤い色は悪いものを追い払うという言い伝えによりつけている。)
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 25%;">ひなまつりにちらしずしが出るね</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 25%;">3月にお赤飯が出たよ</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 25%;">十五夜のごまだんごが楽しみ</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;">みんなが健康で長生きするように願いがこめられているね</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 45%;">元気であることをお祝いしているね</div> </div> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>昔から伝わるものやりょうりには、みんなの健康や長生きしてほしいという願いがこめられているんだね。</p> </div>	<p>(T1) 昔から伝えられている行事食には意味があることを確認する。</p> <p>(T1) ワークシートで願いを込めて作られたものや料理について、わかったことのふりかえりをさせる。</p>
	ワークシートに願いを込めて作られたものや料理、絵、説明を記入してふりかえる。	

7 他教科・領域や現代的な課題等との関わり

- ・食育
- ・家庭科～6年「こんだてを工夫して」の最後に、チャレンジコーナーとして「日本の伝統食」を調べたり「おせち料理のいわれ」を調べたりする活動が紹介されている。
- ・社会／総合的な学習の時間～昔のおせち料理と、最近のおせち料理の食材の生産地を調べる活動など。

(2) 中学校

ア 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標(道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。)に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

イ 教科の特徴

道徳科の授業では、[節度、節制][思いやり、感謝][生命の尊さ]などの道徳的価値を含む内容についての指導が行われます。基本的な生活習慣に関する内容には規則正しい食習慣が関わっており、同様に感謝や生命尊重には食への感謝、郷土には地域の食文化に関わるなど、それぞれ食に関する指導と深く関わっています。

したがって、食に関する指導に当たっては、「食に関する指導の目標」や六つの視点と関連する道徳の内容を十分理解した上で、道徳科の特質を生かして多様な学習を展開していきます。

ウ 教科の内容

(ア)食に関連する内容

A 主として自分自身に関すること

[節度、節制]

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。

B 主として人との関わりに関すること

[思いやり、感謝]

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。

C 主として集団や社会との関わりに関すること

[郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、

地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]

優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。

D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

[生命の尊さ]

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

道徳科の基本的な学習指導過程は、一般的には、導入、展開、終末の各段階を設定します。それぞれの段階には、次のような役割があります。

【導入】 主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根底にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図ります。

【展開】 ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、生徒一人一人が、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深めます。

【終末】 ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぎます。

(イ) 題材

題材名	食育に関する内容
「養生訓」より（中1）	成長や健康管理を意識するよう促す。 望ましい食習慣の形成について考え実現することのよさや難しさなどを確認し、次につなげるようにする。
日本のお米（中1）	米を通して食文化や伝統について考えを深め、自然との共生について考える。

なおしもん（中1）	和食器を通して伝統と風土が結びつき、多様な食文化があることに理解を深める。
リクエスト食を支える（中3）	心が元気になるためには食が大切であることを確認する。栄養教諭に聞くなど多面的・多角的に考え、食事提供に対する思いを深める。
海とストロー（中3）	フードリサイクルやSDGsを考えた食生活について考え実現することのよさや難しさなどを確認したりして、次につなげるようにする。
命とむきあう（中3）	「生きることは食べること」であることから、食事の大切さについて考えるようにする。

（ウ） 学習段階における食に関する指導の例

【導入の段階】

- 自分の生活を客観的に振り返り、特に朝食の取り方や、食事内容について振り返ることで、食の大切さを考えるきっかけとなるようにします。〔A 節度、節制〕
- これまで体験した農産物の収穫の体験などを振り返り、農産物を生産する労働について関心を向けさせ、食物が多くの人々の手によって生産されていることを意識させるようにします。〔B 思いやり、感謝〕
- これまで体験した動物の飼育の体験や家庭で飼育しているペットなどとの関わりを振り返り、動物の生命について関心をもたせ、展開の段階につなげるようにします。〔D 生命の尊さ〕

【展開の段階】

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合い、規則正しい生活習慣、生活のリズムは大切だとは分かっているが、心の弱さから不規則な生活になってしまうことがあることに共感させ、自分との関わりで節度ある生活について考えさせます。〔A 節度、節制〕
- 農作物の生産に関わる教材を通して、農業に従事する人々の仕事の様子や消費者への思いについて知り、生産者の気持ちなどについて話し合うことで、自分が毎日食事をいただけるのは、多くの人々によって支えられていることについて考えさせます。〔B 思いやり、感謝〕

- 動物を殺して郷土料理を作ることに反発しながらも、最後にはその料理を食べる登場人物の気持ちを考えさせることで、自分が生きるために、他の命をいただいているということについて深く考えさせます。〔D 生命の尊さ〕

【終末の段階】

- ある生徒の生活習慣を描いた教材などを通して話し合った後、自分の生活を振り返る中で朝食を食べる意義を考え、自己の生活における食生活を見直す実践意欲を高めるようにします。〔A 節度、節制〕
- 農作物の生産に関わる教材での話合いの後、米作りや野菜作りに一生懸命に励んでいる人たちの映像を視聴し、生産に取り組んでいる人と、作り出された食物そのものにも感謝して生活しようとする心情を高めるようにします。〔B 思いやり、感謝〕
- 人間が生きて行く上で食べるということの大切さに改めて気付かせ、食べるということは生命をいただくことであり、食生活は生命のつながりによって成り立っていることを実感させ、生命を尊重する心情や態度を育てます。〔D 生命の尊さ〕

エ 他教科等との関連

- 保健体育において、「生活習慣を確立することの大切さ」について考えていき、生活習慣と心の健康の関係、他の病気との関連を学習します。食育に関連することとして、生活習慣の問題点では、食事の時間が不規則であることや朝食を食べないこと、食事の量や質の偏りが病気の原因となっていくことを捉えさせていきます。
- 技術・家庭科の（家庭分野）においては、健康と食生活について考えていき、生活リズムと食事や栄養素の働き、食品などを取り上げます。また、栄養素のバランスを考えながら1日分の献立を立てたり、調理実習を行ったりしています。
このように、多くの教科で「生活習慣を確立することの大切さ」について考え、その教科から考えた根拠を学習し、関連付けていくことで、道徳科の授業でも自分の生活を見つめ、道徳的価値に迫ることが期待できます。

オ 栄養教諭の関わり方

【導入の段階】

主題や教材に対する生徒の興味・関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図るため、例えば、給食に関する写真や実物、統計資料、掲示資料など、栄養教諭のもつ情報を生かして、これから話し合おうとする内容について、興味や関心を高め、問題意識をもつことができるように関わります。

特に、生徒にとってアンケートを活用したり、視覚に訴える写真などを生かして提示したりすると、生徒の話合いへの動機付けをより強く図ることができます。また、学習課題を設定することもあります。

なお、多くの資料を用いず、厳選した資料で心を動かすように関わり、短い時間で進めます。

【展開の段階】

ねらいを達成する、また、読み物教材や映像教材、語り聞かせによる教材などを通して話し合い、生徒一人一人がねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめるため、道徳科の授業の教材作成時、食や食育に関する情報などを作成者（担任教諭など）に情報提供したり、内容などのアドバイスをしたりします。栄養教諭自身がその専門性を生かして教材を作成したり、担任教諭と協力して作ったりすることも考えられます。

また、課題について生徒が追究する段階では、生徒の主体的な思考を促し、適切な問い返しや話題の拡張で課題を追究できるようにします。

グループ活動では、栄養教諭は、専門性を生かして、グループ活動を行っている生徒の話合いに助言したり、質問に答えたりすることで、担任教諭と協力しながら、話し合いが円滑に行われるようにし、生徒の学習を支援します。

【終末の段階】

道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、今後の発展につなぐため、食事に関する話や、心に響く写真や映像を見せるなど印象付けを図ったりして、生徒の心に強く残るまとめとなるように工夫することが大切です。

また、ねらいとする道徳的価値に対する生徒一人一人の思いや考えを大切にしながらも、栄養教諭からの願いを伝えたり、食事や食生活の意味を端的に伝えたりして、食事の在り方や食生活について、よりよい習慣を身に付けていこうとする意欲などを高めることができるようにします。

第1学年 道徳科指導案（例）

1 題材名 食文化や伝統の継承

「日本のお米」 C-（16）我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

2 主題のねらい

自分が生まれ育った郷土は、その後の人生を送るうえで心のよりどころとなるなど、生き方において大きな役割を果たすものである。自分が生まれ育った国や郷土の伝統や文化に積極的にに関わり、理解を深めるようにしたい。さまざまな体験を通して国や郷土の伝統や文化に十分な愛着を感じられるようにする。

そのためにまずは、身近な伝統や文化に対して、興味を抱けるようにしたい。伝統や文化に対して愛着をもち、大切にしている心は、それらと自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものである。

米を通して食文化や伝統について考えを深め、尊重し、継承・発展させる態度を育てたい。

3 学びの姿

- ・積極的に話し合いに参加し、食文化や伝統について理解しようとする。

（多面的・多角的に考える）

- ・伝統や文化の継承のために、自分にできることを考え、実践しようとする。

（自己を見つめる 自己の生き方についての考えを深める）

4 食育の視点

- ・各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解する。
- ・食文化や伝統に関心をもち、自分にできることを考え、継承・発展させる態度を養う。

【食文化】

5 本時の目標

米を通して食文化や伝統について理解を深め、伝統や文化の継承のために自分にできることを考え、実践しようとする意欲をもつ。

6 展開例

	生徒の学習内容・活動等	教師の関わり	留意点・評価
導 入	<p>○給食の残量を見て、気付くことを書き出す。</p> <p>○自分の食べ方について振り返る。</p> <p>○教材「日本のお米」の範読を聞く。</p>	<p>・ある1か月間の給食の残量を提示する。</p> <p>・栄養教諭からご飯の日（和食）の残量について触れる。</p> <p>・伝統、食文化とは何かを確認する。</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>昔の日本人が大切にしてきた伝統や食文化に対して、私たちができるのはどんなことだろう</p> </div>		
展 開	<p>○課題について話し合う。</p> <p>・私たちにとってお米とは何か。</p> <p>・水田がつぶされ、農業をする人が減るとどんなことが起こるか。</p> <p>・日本からお米がなくなったらどう思うか。</p> <p>・お米の他、日本にはどんな伝統や食文化があるか。</p> <p>○私たちができることを考える。</p>	<p>・米は衣・住生活においても、循環型で環境に優しい植物であり、稲作は豊かな水資源を維持し自然環境を支えてきたことに気付かせる。</p> <p>・お米だけでなく、日本には様々な伝統や食文化があることにも気付かせる。</p>	<p>・議題に沿って話し合い、考えを深められているか。</p> <p>・伝統や文化に対して自分にできることを考えることができているか。</p>
ま と め	<p>○栄養教諭の話を聞く。</p> <p>*食文化や伝統の継承の願い</p>	<p>・お米だけでなく、郷土料理や食文化等、伝統を大切にしてほしいことを話す。</p> <p>・給食にも登場する郷土料理等にも触れる。</p>	

7 他教科等とのかかわり

社会科において、地理の観点から日本の農業について、歴史の観点から伝統や食文化の歴史などについて関連付けて理解を深めることができる。

6 総合的な学習の時間（小学校・中学校）

ア 目標

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

イ 教科等の特徴

総合的な学習の時間は、児童生徒が探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成します。地域や学校、児童生徒の実態等に応じて学習する内容を定めるなど、各学校の創意工夫を生かした指導計画に基づく教育活動となり、児童生徒自らが、日常生活や社会との関わりの中から問いを見だし、そこから設定した課題を探究的な学習の過程を通して解決していくこととなります。

各学校で設定する内容には、目標を実現するにふさわしい探究課題と、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示します。各学校では、「何を学ぶか」（探究課題）とそれを通して「どのようなことができるようになるか」（資質・能力）という二つを設定し、示すこととなります。

食に関する指導についても、児童生徒の発達の段階と地域の実態を考慮して、各学校で目標及び内容（探究課題と資質・能力）を明確に定めて実施することが必要です。学習活動を通して、食に関する概念的な理解が深まるようにします。

ウ 教科等の内容

(ア) 食に関連する内容

- ①各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。
- ②各学校において定める目標及び内容については、他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること。
- ③各学校において定める目標及び内容については、日常生活や社会との関わりを重視すること。
- ④各学校において定める内容については、目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと。

- ⑤目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題（地域や学校の特色に応じた課題）、児童（生徒）の興味・関心に基づく課題、（職業や自己の将来に関する課題）などを踏まえて設定すること。
- ⑥探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、次の事項に配慮すること。
- ア 知識及び技能については、他教科等及び総合的な学習の時間で習得する知識及び技能が相互に関連付けられ、社会の中で生きて働くものとして形成されるようにすること。
- イ 思考力、判断力、表現力等については、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現などの探究的な学習の過程において発揮され、未知の状況において活用できるものとして身に付けられるようにすること。
- ウ 学びに向かう力、人間性等については、自分自身に関すること及び他者や社会との関わりに関することの両方の視点を踏まえること。
- ⑦目標を実現するにふさわしい探究課題及び探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力については、教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力が育まれ、活用されるものとなるよう配慮すること。

（イ）食に関する指導の進め方例

＜小学校＞

①現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（食、健康）

探究課題	主な学習活動	探究課題を解決するための食育に関する内容
身近な食の変化と健康な暮らし (食、健康)	「むかしの食事と比べよう」 小学校第3学年 40時間 祖父母など身近な高齢者に取材しながら、昭和初期頃の食事の様子・食材・メニュー・マナーなどについて今の自分たちの食事の様子と比べながら調べ、食生活を見直すとともに、健康な暮らしについて考えます。	・昔の食事と自分の食事、それぞれの特徴は何か。 ・昔と今の食事の長所を生かした健康によい食事のメニューはどのようなものか。 ・他に健康によいことは何か。
菓子のある生活のよさと健康との関係(健康)	「体によいお菓子を作ろう」 小学校第4学年 25時間 児童が普段食べているお菓子を持ち寄り、原材料を調べ、自分が普段食べるお菓子が何からできているのかを知り、その特徴に	・自分が普段食べているお菓子の原材料は何か。 ・体によいお菓子はどのようなものか。 ・体によいお菓子をどのような手順で作ればよいか。

	<p>ついて理解しながら、体によいお菓子の在り方を考えます。実際に、手作りのお菓子を作って食べたり、菓子メーカーに児童が考えたお菓子を提案したりするなどの活動を通して、食生活と健康との関わりについて考えていきます。</p>	<p>・もっと健康な体をつくるには何が必要だろうか。</p> <p>菓子作りの際、地元の食材を扱うことで地産地消についても学習することができる。</p>
--	---	--

**②地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題
(伝統文化、地域経済)**

探究課題	主な学習活動	探究課題を解決するための食育に関する内容
<p>地域の伝統野菜を守る農家の思いと伝統野菜をPRする活動（伝統文化、地域経済）</p>	<p>「地元の伝統野菜をPRしよう」 小学校第6学年 50時間 給食に使われている伝統野菜は、どこで、誰が、どんなふうにつくっているのか、実際に生産地を調査したり、栽培活動をしたりします。つくり方や苦労すること、楽しいと感じることなどをインタビューし、それらをポスターにまとめ発表会で交流し合うことを通して、生産者の思いに触れ、伝統野菜、そして地元のよさに気付き、そのよさを守るためのPR活動に取り組みます。</p>	<p>・給食で使われている食材の生産地はどこか。</p> <p>・伝統野菜をつくり続ける理由は何か。</p> <p>・どのように、伝統野菜を守り続けたりPRしたりするか。</p> <p>対象として大浜みやこかぼちや、札幌黄、札幌大球、サッポロミドリ、札幌白ゴボウなどが考えられます。</p>

③児童の興味・関心に基づく課題（農作物の栽培）

探究課題	主な学習活動	探究課題を解決するための食育に関する内容
<p>米作りと地域の食文化を守る人々の思い（農作物の栽培）</p>	<p>「お米をつくろう」 小学校第5学年 70時間 米の産地と種類、歴史、輸出入の状況などを調べたり、米ができるまでの世話などについて農家の人に教わったりします。また、実際に稲を栽培し、化学肥料や農薬の是非について考えたり、収穫してご飯を炊いて味わったりする活動を通して、お世話になった人々と味わいながら、地域の食文</p>	<p>・自分たちで米を栽培するためにどのような手順で行えばよいか。</p> <p>・化学肥料や農薬の是非についてどのように調べるか。</p> <p>・米を含む地域の食文化を守るために何が必要か。</p>

	化を育んできた人々の知恵や工夫に気付かせます。そこから、自分の住んでいる地域への愛着と地域の一員としての自覚を深めたり、我が国の主食である米を大事にし、進んでご飯を食べようとする態度を育てたりします。	
--	--	--

<中学校>

① 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題（食、健康）

探究課題	主な学習活動	探究課題を解決するための食育に関する内容
健康を考えた食生活と高校生の昼食の在り方（食、健康）	「高校生に向けての昼飯を考えよう」 中学校第3学年 30時間 来年度になれば、多くの生徒は高校に進学したり、就職したりと、弁当持参の生活になることが予想されます。欠食したり偏食したりすることがないように進学・就職した時の昼飯の在り方について、学校給食と比較しながら考えます。そして、自分たちでも作ることができる栄養バランスのとれた一食分のおすすめメニューを考えてレシピ集にまとめ、次年度実際に弁当を作って持参しようとするなどの態度を育みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・欠食や偏食は体にどのような影響を及ぼすか。 ・自分たちの食習慣と健康とはどのような関わりがあるのか。 ・体によいおすすめメニューを考えるために、どのように調べるか。 ・より健康で安全な食生活にするためにどのようにすればよいか。

②生徒の興味・関心に基づく課題（環境）

探究課題	主な学習活動	探究課題を解決するための食育に関する内容
環境にやさしく経済的な調理方法（環境）	「目指せ！エコな食生活」中学校第2学年 30時間 エコロジー（環境に優しく）でエコノミー（経済的）な料理や調理法を考えることで、調理によって出されるゴミをなるべく少なくし、エネルギーを効率よく使って調理したり、残さず食べたりしようとするなど、自分たちの食事の在り方を見直します。	<ul style="list-style-type: none"> ・エコロジーでエコノミーな料理について具体的に考える。 ・自分の食事を見つめ、食生活に取り組むために必要なことは何か。 ・学校給食フードリサイクルについて触れる。

エ 他教科等との関連

社会、理科、家庭・技術家庭、体育・保健体育等当該学年の他教科等の食に関する指導の内容と関連させます。

オ 栄養教諭の関わり方

<計画>

- 探究課題で取り扱う「食の内容」が、当該学年の他教科等の食に関する指導内容と関連している内容や前学年までの既習事項と関係する内容などを表に整理し、その位置付けを明確にします。
- 学級担任等に対して、取り扱う食材の「旬」などを考えて実施時期についてアドバイスをしたり、地域の産物や協力してもらえそうな人材等についての情報を提供したりしながら具体的な活動を設定し、単元を構想します。

<実践>

- 「食の専門家」として児童生徒の疑問に答えたり、関連図書や関連するホームページなどの資料を提示したり、児童生徒の課題について回答できる人を紹介したりします。
(・食材の種類や栄養と健康との関わり・地域の特色・地域の人材・地域の機関・調理の仕方)
- 調理の際に、技能面・安全面・衛生面から支援します。
- 児童生徒の学びを生かします。
(・給食のメニューに取り入れる。・「給食だより」等で家庭・地域に広める。)

<評価>

- 単元終了後、児童生徒の実態を観察したり、児童生徒や保護者に尋ねたりしながら、学級担任等が行う評価の参考となる資料を提供します。

7 特別活動

(1) 小学校

ア 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- ①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- ②集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- ③自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

イ 教科等の特徴

特別活動の目標には、資質・能力を育成するために、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」という学習の過程が示されています。

ウ 教科等の内容

(ア)食に関連する内容

<学級活動>

「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」
給食の時間を中心としながら、健康によい食事のとり方など、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。

<児童会活動>

児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担し協力するといった活動を展開する中で、所属感や連帯感、互いの心理的な結び付きなどが結果として自然に培われるようにする。

<クラブ活動>

児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担し協力するといった活動を展開する中で、所属感や連帯感、互いの心理的な結び付きなどが結果として自然に培われるようにする。

＜学校行事＞

(3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得するとともに、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

(イ) 具体例

＜学級活動＞

- 給食時機の配置やグループの作り方などについて学級のみんなで話し合い、学級のよりよい人間関係を築くとともに、児童自らが主体的に楽しい給食の時間をつくろうとする自主的、実践的な態度を育成します。
- 自己の食生活の課題について、その原因や解決方法を話し合い、自ら解決方法を決めて実践し、改善を図って主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとしています。
- 係活動は「こんだておしらせがかり」や「学級レストラン係」などを作って、給食への関心を高めたり、給食の時間を和やかな雰囲気にしたたりするなどの創造的な活動が展開できるようにします。

＜児童会活動＞

- 食に関する委員会活動や児童会集会活動
- 縦割りグループやペア学年など異年齢での交流給食
- 給食でお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える集会
- 新聞、給食献立ベストテンなどのアンケート調査、食に関する指導の際に活用した資料などを掲示します。
- 放送委員会の取組の中に、楽しい給食時間となるよう、自分たちの発想を生かす活動として位置付けます。

＜クラブ活動＞

- 料理クラブ
計画から調理、試食、後片付けなどについて、児童自らが協力して楽しく活動できるようにします。
- 郷土食クラブ

地域の方々の協力を得ながら地域の特産野菜の栽培に取り組みます。

＜学校行事＞

- 健康診断などの健康安全・体育的行事において、個々に発育の状況には違いがあることや、食事や運動、適切な睡眠時間など調和のとれた生活が必要なことを理解し、健康な生活を送ることができるような意欲や自主的、実践的な態度を育てます。
- 給食週間や給食と健康に関する学校行事を実施する際には、例えば給食の調理員や食材の生産者など、学校給食に関わる様々な方々に感謝するとともに、学校給食の歴史やその大切さについて理解できるようにします。

エ 他教科等との関連

家庭、体育当該学年の他教科等の食に関する指導の内容と関連させます。

オ 栄養教諭の関わり方

特別活動の特質や目標を理解し、食に関する高い専門性を生かして食に関わる様々な情報や資料の作成に努め、子どもが学校給食を通して望ましい食生活について学べるような教材開発や授業展開をします。

全体計画等の作成については、栄養教諭を中心としながら、6年間もしくは9年間の食に関する指導全体を見通して、意図的、計画的に指導計画を作成します。

家庭科や体育などの指導と重ならないようにしたり、日常の指導を充実させたりするなどして、内容については発達段階に応じて重点化を図ります。

第2学年 学級活動指導案（例）

1. 題材名 「やさいとなかよし」

- (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2. 題材の目標

- 野菜はビタミンや食物繊維の供給源であることを理解し、1日に必要な野菜の量を知る。
- 自分の食生活を振り返りながら課題を見つけ、望ましい野菜の食べ方を考える。
- 野菜の働きについて進んで考え、食べようとする態度を養う。

3. 評価規準

- 給食に使用している野菜の名前やはたらきを理解し、望ましい食べ方について、学習した具体例を挙げている。 (知識・技能)
- 自分の生活の仕方を振り返り、どのくらい野菜を食べるとよいかその理由を仲間に伝えている。 (思考・判断・表現)
- 食べ物について興味をもって話を聞き、野菜の働きについて進んで考え、食べようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

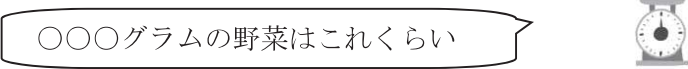

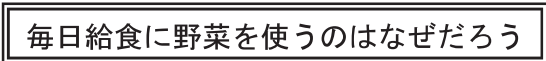
4. 食育の視点

- 給食に毎日のように野菜を使っている理由を知り、好き嫌いなく食べようという意欲を持つ。【食事の重要性】【食品を選択する能力】

5. 本時の目標

給食に使われている野菜の名前や、野菜の栄養、自分に必要な野菜の量を知ることを通し、もっと野菜を食べる習慣を身に付ける。

6. 展開例 T1 学級担任 T2 栄養教諭

	学習活動	教師の関わり
つかむ	表示を隠した計りに実物の野菜を載せ〇〇〇gにするゲームをする。	(T1) 野菜を計量するゲームを数名に行う。
		(T2) ゲームの野菜が前日の給食に使った野菜と同じ〇〇〇gの野菜であることを伝え、写真を見せながら前日の給食メニューを思い出させる。また、野菜を強調した給食だよりの食材表を提示し野菜の多さを実感させる。
		
さぐる		

<p>みつける</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">おいしいから出しているのかな</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">ビタミンが多いから出た方がよいよ</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> びょうきとたたかう体をつくる ビタミンC </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> はだを じょうぶにして びょうきからまもる βカロテン </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ちょうを そうじして うんちをだしやすくする 食物繊維 </div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 20px; text-align: center;"> 野菜を食べることで体の調子がととのうからだ。 </div>	<p>(T1)(野菜に人気がないのにもかかわらず)給食にいつも野菜を使っている理由を考えさせる。</p> <p>(T2) ひみつボックスの中の野菜のはたらきを書いた巻物の紙を児童に 1 本ずつ取り出させる。黒板に貼りながら野菜の栄養とはたらきについて知らせる。</p> <p>(T1)給食の野菜だけで量は足りているか考えさせる</p> <p>(T2)給食では1日に食べてほしい野菜の量 300g に足りていないことを伝えるとともに、300g の野菜を計ることで量を実感させる。</p>
<p>きめる</p>	<p>ワークシートで野菜の 3 つの働きを確かめ、野菜を食べよう週間の目標値を決める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">家でも○○○g 食べないと</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 150px;">食べる量の重さをはかってみよう。</div> </div>	

7. 他教科との関連

生活科「めざせ野菜作り名人」において、身近な野菜と関連付けて理解を深めることができる。

(2) 中学校

ア 目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。

- ①多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。
- ②集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようにする。
- ③自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。

イ 教科等の特徴

特別活動の目標には、資質・能力を育成するために、「様々な集団活動に自主的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」という学習の過程が示されています。

ウ 教科等の内容

(ア)食に関連する内容

<学級活動>

- (2) オ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」

給食の時間を中心としながら、成長や健康管理を意識するなど、望ましい食習慣の形成を図るとともに、食事を通して人間関係をよりよくすること。

<生徒会活動>

- (1) 生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営

生徒が主体的に組織を作り、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見出し解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。

- (2) 学校行事への協力

学校行事の特質に応じて、生徒会の組織を活用して、計画の一部を担当したり、運営に主体的に協力したりすること。

<学校行事>

- (3) 健康安全・体育的行事

心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。

(4) 旅行・集団宿泊的行事

平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。

(5) 勤労生産・奉仕的行事

勤労の尊さや生産の喜びを体得し、職場体験活動などの勤労観・職業観に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、共に助け合つて生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られるようにすること。

(イ) 具体例

<学級活動>

- 入学後、中学校での給食のルールについて、VTRや資料で学習し、その後学級で食事のマナーについて話し合います。
- 自己の食生活について振り返り、その課題や原因、解決方法を話し合い、自ら解決方法を決めて実践し、改善を図つて主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとしています。

<生徒会活動>

- 給食委員会において、食の観点から多様な活動に取り組み、よりよい生活づくりに向けて具体的に改善できるようにするための活動を進められるようにします。(残量調査、食事マナー向上呼びかけ等)
- 学校給食週間の取組として、例えば、給食や望ましい食生活に関するポスターの募集や制作等の活動を行い、全校に向けて食に関する啓発活動を行います。
- 放送局の活動として、給食調理中の様子や栄養教諭のインタビューなどのVTRを放送します。

<学校行事>

- 健康診断などにおいては、生徒自身が自己の発育や健康の状態を知り、自主的、自立的に健康な生活を送ることができるようにします。
- 修学旅行等において、その地域の伝統的な食文化に触れる体験を取り入れ、実際に味わつたり、生産活動に参加したりするなど、体験することによって地域の食に関する理解を深めます。

エ 他教科等との関連

技術家庭、保健体育等当該学年の他教科等の食に関する指導の内容と関連させます。

オ 栄養教諭の関わり方

食に関する指導の推進の要として特別活動の指導計画作成に主体的に関わり、各教科等や特別活動の各内容との関連や生徒指導との関連を図りながら、教務主任や学年主任、養護教諭とも連携を図って3年間の食に関する指導を適切に位置付けるようにします。

第2学年 学級活動指導案（例）

1 題材名 自分の食生活を見直そう

2 題材の目標

- ・規則正しい食生活の重要性を理解する。
- ・栄養や食事のとり方などについて課題を見つけ、正しい知識・情報に基づいて自ら判断できるようになる。
- ・自分の食生活の課題を見つけ、改善に向けた工夫を考え、実践することができる。

3 評価規準

- ・規則正しい食生活の重要性を理解したことを言ったり書き出したりしている。
(知識・技能)
- ・自分の食生活の課題を見つけ、改善に向けた工夫を考え、実践するための方法を見いだしている。
(思考・判断・表現)
- ・規則正しい食生活の重要性を理解し、改善しようとしている。
(主体的に学習に取り組む態度)

4 食育の視点

- ・心身の成長や健康の保持増進における食生活の重要性について理解する。
【食事の重要性】
- ・望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自己管理していく能力を身につける。
【心身の健康】

5 本時の目標

- ・規則正しい食生活の重要性を理解する。
- ・自分の食生活を見直し、健康に生活するための改善点を考えることができる。

6 展開例

	生徒の学習内容・活動等	教師の関わり	留意点・評価
つかむ	○自分の1日の生活を振り返る。	・1日のスケジュールを円グラフに記入させ、生活を振り返らせる。	
	自分の生活を振り返り、健康に過ごすための工夫を考えよう		

<p>さ ぐ る</p> <p>見 付 け る</p>	<p>○スケジュール表をもとに、チェックシートに記入し、自分の課題をつかむ。</p> <p>【生活編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食を食べている ・7時間以上睡眠をとっている ・運動をしている <p>【食事編】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日だいたい同じ時間に食事をしている ・3食しっかり食べている ・肉ばかり、魚ばかりではなく、バランスよく食べている ・間食の内容と時間に気をつけている <p>○自分の課題について原因を考える。</p> <p>○朝食摂取と体調・学習面等との関連性について、規則正しい食生活の重要性について知る。</p> <p>○課題改善のためにできることを話し合う。</p>	<p>・朝食がとれていないこと、就寝時間が遅いこと、食事の時間が遅いことなど、自分の課題に気付かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活面だけでなく、普段の食事の内容についても振り返り、課題をつかめるようにする。 <p>・起床時間が遅く、朝食がとれていないこと、スマホを見ていて就寝時間が遅いこと、塾に行っているため食事の時間が遅いことなど、課題の原因に気付かせる。</p> <p>・朝食摂取と勉強・運動の関係性、成長期であることや部活動等で運動をすること、夜食のことなども視点に説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事調査（栄養士会）の結果も踏まえて説明する。 ・小グループに分かれ、課題を数個あげ、改善策を話し合わせる。 	<p>・自分の生活を、チェックシートを使用して確認できるようにする。</p> <p>・生活面の課題が食事面の課題と繋がっていることに気が付くことができるようにする。</p> <p>・規則正しい食生活の重要性を理解しているか。</p>
<p>き め る</p>	<p>○改めて自分の1日の生活を見直し、改善策の中から実践することを決め、日常生活につなげる。</p>	<p>・生活を大きく変えるのではなく、まずはできる小さなことから始められるよう助言する。</p>	<p>・自分の生活を見直し、健康に生活するための改善点を考えることができたか。</p>

7 他教科等とのかかわり

保健体育科の「食事と健康」において、食事の役割や中学生に必要な栄養素、健康の保持増進のための望ましい食生活などと関連付けて理解を深めることができる。